ニ通知シテ上告ノ權ヲ抛棄シタル時
檢察官上告申立人ナルトキハ其權ヲ抛棄スル
コトヲ得ス

第五百五十四條　大審院ニ於テ豫メ上告ヲ受理ス可キノ言渡ヲ爲シタル時又ハ檢事長ヨリ第五百五十二條ニ循ヒ上告ヲ受理ス可キヤ否ニ付キ先ツ判決ス可キノ請求ナキ時ハ院長ヨリ刑事局裁判官中ニテ專任判事一名ヲ命ス可シ
專任判事ハ一切ノ書類ヲ檢閲シタル上ニテ其申立書ヲ作ル可シ但自己ノ意見ヲ發露ス可カラス

第五百五十五條　上告申立人又ハ對手人ハ專任判事ヨリ申立書ヲ差出スニ至ルマテハ大審院書記局ヲ經由シテ其趣意ヲ擴張ス可キ辯明書又ハ第五百三十四條ニ循ヒ附帶ノ上告ニ付キ趣意書ヲ差出スコトヲ得
若シ遲延シテ辯明書又ハ趣意書ヲ差出シタルニ因リ專任判事之ヲ檢閲スルコト能ハサルトキハ院ニ於テ之ヲ檢閲シ又ハ代言人ヲシテ公廷ニ於テ其旨趣ヲ辯明セシムルコトヲ得
書記ハ開廷ヨリ三日前ニ開廷ノ日時ヲ上告申立人

及ヒ對手人ニ報知ス可シ

第五百五十六條　開廷ノ日ニハ公廷ニ於テ專任判事其申立書ヲ朗讀ス可シ

上告申立人及ヒ對手人ノ代言人又院ノ允許ヲ得タルトキハ本人自ラ其趣意ヲ辯明スルヿヲ得

私訴ノ上告ニ付テハ檢事長最終ニ其意見ヲ陳述ス可シ

第五百五十七條　裁判言渡ハ裁判官會議局ニ於テ商議シタル上ニテ即時ニ之ヲ爲シ又ハ後日ニ延ハスヿヲ得

辯論及ヒ裁判言渡ハ公廷ニ於テ之ヲ爲ス可シ

裁判言渡書及ヒ公判始末書ハ通常ノ法式ニ循ヒ之ヲ編製シ且署名捺印ス可シ

第五百五十八條　大審院ニ於テ上告申立人ヨリ申立タル條件ニ付キ破毀ス可キノ理由ナシトスルトキハ上告ヲ棄却ス可シ

第五百五十九條　管轄違又ハ管轄ナリトノ言渡ニ對スル上告アリタル場合ニ於テ其管轄ヲ定ムルニ付テノ証憑充分ナラサルトキハ大審院ニテ其上告ヲ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ト看做シ第六百九條第二項ノ

規則ニ循ヒ處分ス可シ

第五百六十條　大審院ニ於テ豫審又ハ公判ノ言渡ニ對スル上告ニ付キ破毀ノ原由アリトスルキハ其言渡ノ全部ヲ破毀シ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス可シ但後ノ數條ニ記載シタル別段ノ場合ハ此限ニ在ラス

第五百六十一條　陪審ヨリ有罪ナリトノ申立ヲ爲シタル事件ニ付キ擬律ノ錯誤アルヲ以テ原裁判言渡ヲ破毀シタルキハ大審院ニ於テ其事件ヲ移スコナク直ニ相當ノ刑ヲ言渡ス可シ

第五百六十二條　陪審ヨリ有罪ナリトノ申立アリタル後公訴受理ス可カラサルトノ理由ニ因リ不問ノ言渡ヲ爲シタルヲ以テ原裁判言渡ヲ破毀シタルキハ亦前條ノ規則ニ循フ

若シ輕罪又ハ違警罪ノ事件ニ付キ公訴受理ス可カラサルノ理由ニ因リ不問ノ言渡ヲ爲シタルヲ以テ原裁判言渡ヲ破毀シタルキハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス可シ

第五百六十三條　陪審ノ申立其法式ニ背クヿナシト雖モ裁判言渡ノミヲ公行セサルニ因リ原裁判言渡

ヲ破毀シタルトキハ大審院ニ於テ法律ニ循ヒ更ニ其裁判言渡ヲ爲ス可シ

前項ノ原由ニ因リ私訴ニ付テノ原裁判言渡ヲ破毀シタルトキハ其事件ヲ控訴裁判所ノ民事局ニ移ス可シ

輕罪又ハ違警罪ノ事件ニ付テハ裁判言渡ノミヲ公行セサル時ト雖モ原裁判言渡ヲ破毀シ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス可シ

第五百六十四條　同一ノ事件ニ付キ同一ノ訴訟管係人二箇以上ノ裁判言渡ヲ受ケ其一箇ノ裁判言渡確定シタルトキハ大審院ニ於テ他ノ裁判言渡ヲ廢棄シ既ニ確定シタルモノヲ以テ有効トス可キヿヲ言渡ス可シ

若シ二箇ノ裁判言渡共ニ確定シタル場合ニ於テ第五百四十二條ニ循ヒ非常上告アリタルトキハ大審院ニ於テ後ニ確定シタル裁判言渡ヲ破毀シ前ニ確定シタル裁判言渡ヲ執行ス可キノ言渡ヲ爲ス可シ

第五百六十五條　公判手續ニ越權アルニ因リ上告アリタル場合ニ於テ大審院ニテ原裁判手續ノ全部又ハ幾部ニ瑕疵アルヿヲ認メタルトキハ其裁判言渡ヲ

破毀シ通常ノ規則ニ循ヒ裁判セシムル爲メ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス可シ

豫審ノ手續ニ越權又ハ無効ノ記載アル法式ニ背キタルニ因リ上告アリタル場合ニ於テハ其瑕瑾アル手續及ヒ其後ノ手續ヲ破毀シ更ニ通常ノ規則ニ循ヒ破毀ニ係リタルヨリ後ノ手續ヲ爲サシムル爲メ其事件ヲ他ノ裁判所ノ豫審裁判官ニ移ス可シ

上告ニ係ル手續ニ瑕瑾アリト雖モ其後ノ手續ニ利害ヲ及ホサヽルトキハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スヿナク啻ニ其手續ヲ破毀ス可シ

第五百六十六條　附帶ノ裁判言渡ニ對シ第五百三十二條ニ定メタル原由ニ付キ上告アリタル場合ニ於テ大審院ニテ本案ノ裁判言渡ノ全部又ハ幾部ニ付キ上告申立人ノ害トナル可キ影響ヲ生シタルトキハ本案ノ裁判言渡ト同時ニ之ヲ破毀ス可シ

第五百六十七條　裁判言渡ノ幾部ニ對シ上告アリタル場合ニ於テ他ノ部分ニ管係アラサルトキハ大審院ニ於テ啻ニ上告ニ係ル部分ヲ破毀シタル上ニテ法律ニ循ヒ直ニ相當ノ言渡ヲ爲シ又ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス可シ

第五百六十八條　同一ノ事件ニ付キ被告人數名無罪、免訴又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタルニ拘ハラス其一名又ハ數名上告申立人又ハ對手人トナリタル場合ニ於テ破毀ノ利害ハ其上告ニ管係セサル被告人ニ及フコトナカル可シ

然レ𪜈數人共犯ニ非サレハ罪ト爲ラス又ハ數人共犯ニ因リ別段ナル罪質ヲ有スルトキハ破毀ニ付テノ利益ノミ其上告ニ管係セサル被告人ニ及フ可シ

同一ノ事件ニ付キ共犯人數名ヲ同一ノ裁判所ニ送付スル像審ノ言渡ニ對シ上告アリタルトキモ亦前項ニ同シ

第五百六十九條　大審院ニ於テ破毀シタル事件ヲ他ノ裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲ス可キトキハ其言渡ニ依リ原裁判所ト同等ナル裁判所ヲ定示ス可シ

其定示ス可キ裁判所ハ原裁判所ヨリ最近ナル三箇中ノ裁判所タル可シ但第四章ニ循ヒ公安又ハ嫌疑ノ爲メ遠隔ナル裁判所ニ移スハ此限ニ在ラス

第五百七十條　總テ法律ノ點ニ付キ大審院ノ判決ハ確定ノモノトス

若シ大審院ヨリ送付ヲ受ケタル裁判所ニ於テ院ノ

判決ニ係ル原由ニ付キ其判決ニ反シ管轄違ナルヿヲ言渡シ又ハ公訴受理ス可カラサルノ申立ヲ允許シタルトキハ裁判ヲ拒ムノ罪アリトス

然レトモ其裁判ノ手續ハ總テ通常ノ規則ニ循フ

其裁判言渡書ニハ大審院送付ノ言渡ニ因リ其事件ヲ受理シタルヿヲ記載ス可シ

第五百七十一條　大審院ヨリ送付ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ原裁判ニテ既ニ認定シタル事實ト同一ノ事實ヲ認定シタルトキハ院ノ判決ニ反シ法律ヲ適用スルヿヲ得ス此規則ニ背キタルトキハ檢察官其他訴訟管係人ヨリ越權トシテ上告スルヿヲ得

其他第五百三十二條ニ定メタル原由ニ付キ送付ヲ受ケタル裁判所ノ裁判言渡ニ對シ上告スルヿヲ得

其上告ハ大審院ニ於テ通常ノ規則ニ循ヒ之ヲ判決ス可シ

第五百七十二條　大審院ニ於テ原裁判言渡ヲ破毀シタル上ニテ直ニ裁判言渡ヲ爲シタルトキハ原裁判所又ハ他ノ裁判所ヲシテ其執行ヲ爲サシム可シ

第五百七十三條　大審院ノ缺席裁判ニ付テハ故障ヲ許サス

然レモ大審院ニ於テ缺席裁判ヲ爲ス可キトキハ第五百四十八條第五百五十二條第五百五十五條ニ循ヒ趣意書又ハ報知書ノ送達アリタルヿヲ認定シ其旨ヲ言渡書ニ記載ス可シ

大審院檢事長ハ原裁判所ノ書記第五百四十八條ニ循ヒ上告對手人ニ趣意書ノ送達ヲ爲サヽルトキハ其院ノ書記ヲシテ其送達ヲ爲サシム可シ

前項ノ場合ニ於テハ趣意書ノ送達アリタルヨリ十日ノ後ニ非サレハ公判ニ取掛ル可カラス

第五百七十四條　上告ノ對手人上告ノ申立書又ハ趣意書ヲ受ケ第五百四十九條ニ定メタル期限内又ハ遲クモ專任判事ヲ命セサル以前ニ其答辨書ヲ差出サヽルトキハ檢事長ヨリ第五百五十二條ニ循ヒ五日内ニ之ヲ差出ス可ク否ラサルトキハ答辨書ナシト雖モ對質トシテ裁判ニ取掛ル可キヿヲ告知ス可シ

第五百七十五條　大審院ニ於テハ第五百三十二條第五百四十條第五百四十一條第五百四十二條ノ規則ニ循ヒ原裁判言渡ヲ破毀シタル場合ニ於テ原裁判官ノ重大ナル過失又ハ怠慢アルヿヲ認知シタルトキハ檢事長ノ意見ヲ聽キタル上ニテ事件ノ輕重ニ循

ヒ其裁判官ヲ告戒又ハ譴責スルヿアル可シ但第五百四十一條ノ場合ニ於テ刑法ニ循ヒ刑ノ言渡ヲ爲スノ妨碍トナルヿナカル可シ

上告期限ヲ經過シタルニ因リ原裁判言渡ヲ破毀スルヿ能ハスト雖モ大審院ニ於テハ檢事長ノ請求ニ依リ前項ノ規則ニ循ヒ原裁判官ヲ告戒又ハ譴責スルヿアル可シ

第五百七十六條　譴責又ハ告戒ヲ爲スノ決議ハ會議局ニ於テ之ヲ爲ス可シ

其告戒又ハ譴責ノ言渡書ハ司法卿ニ之ヲ差出シ司法卿ヨリ之ヲ本人ニ送達セシム可シ

總テ告戒譴責及ヒ破毀ノ言渡ハ原裁判言渡書ニ之ヲ記入ス可シ

第五百七十七條　左ノ場合ニ於テハ大審院ノ裁判言渡ニ對シ檢事長其他訴訟管係人ヨリ其院ニ哀訴スルヿヲ得

一　大審院ニ於テ前數條ニ定メタル法式ヲ履行セサル時

二　訴訟管係人ヨリ申立テタル一箇又ハ數箇ノ原由ニ付キ判決ヲ爲サヽル時

三　檢事長ノ意見ヲ聽カサル時

四　同一ノ事件ニ付キ二箇ノ裁判言渡又ハ同一ノ裁判言渡ニ付キ二箇ノ條件抵觸シタル時

五　贋造又ハ錯誤アル書類ニ因リ判決ヲ爲シタル時

第五百七十八條　哀訴ハ前條第一ヨリ第四マテノ場合ニ於テハ裁判言渡アリタルヨリ又第五ノ場合ニ於テハ書類ノ贋造又ハ錯誤アルヿヲ認定シタルヨリ三日內ニ書記局ニ其申立ヲ爲ス可シ

哀訴ノ申立書ニハ大審院所屬ノ代言人署名捺印ス

可シ

書記ハ申立書ヲ受取リタルヨリ三日內ニ之ヲ對手人ニ送達シ對手人ハ同一ノ期限內ニ其答辨書ヲ差出ス可シ

大審院ノ裁判言渡ハ其言渡アリタルヨリ三日間又哀訴アリタルトキハ其判決アルマテ執行ヲ停止ス

大審院ニ於テハ哀訴ヲ受理ス可キヤ否ノ取調ヲ爲シタル上ニテ之ヲ受理ス可キモノトスルトキハ通常上告ノ規則ニ循ヒ前判決ノ改正ヲ爲ス可シ

第五百七十九條　裁判官及ヒ書記ニ付キ第五十五條

第二百六十四條第二百六十九條第二百七十一條ニ定メタル忌避又ハ回避ノ原由ハ大審院ノ裁判官及ヒ書記ニ付テモ亦之ヲ適用ス

忌避又ハ回避ノ申立ハ會議局ニ於テ之ヲ判決ス可シ

第二百七十二條ニ定メタル規則ハ大審院ノ檢事長及ヒ其補員ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第五百八十條　上告ニテ敗訴シタル者ハ第三百五十八條ニ定メタル區別ニ循ヒ訴訟費用ヲ擔當ス可キノ言渡ヲ受ク可シ

第二章　再審ノ訴

第五百八十一條　重罪又ハ禁錮ニ該ル可キ輕罪ノ刑ノ言渡アリタル場合ニ於テ如何ナル裁判所ノ裁判言渡ト雖モ事實上錯誤アルキハ次條ニ定メタル場合ト要件トニ循ヒ再審ノ訴ヲ爲スヿヲ得

再審ノ訴ハ確定ノ裁判言渡ニ對スルニ非サレハ之ヲ爲スヿヲ得ス

第五百八十二條　再審ノ訴ヲ爲スヿヲ得ヘキ場合左ノ如シ

一　殺害ノ罪ニ付キ刑ノ言渡アリタル後其裁判

一　言渡ノ時日ニ當リ嘗テ殺害セラレタリト認メラレシ者現ニ生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタルノ確証アル時

二　同一ノ事件ニ付キ數人各別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ其言渡ニ別段共犯アルヿヲ認メサル時

三　定マリタル場所及ヒ日時ニ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタリトシテ刑ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ犯罪アル以前ニ作リタル公正ノ証書ニ依リ當時其罪ヲ犯スヿ能ハサル遠隔ノ地ニ在リタルヿヲ証明シタル時

四　裁判ニ干預シタル裁判官又ハ陪審賄賂ヲ收受シ又ハ收受スヿ可キヿヲ聽許シタルノ罪ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル時但刑ノ言渡ヲ受ケタル者自カラ賄賂ヲ行フタル場合ニ於テハ此限ニ在ラス

五　公判ニ於テ證人、鑑定人又ハ通譯人詐僞ノ供述ヲ爲シタルニ因リ又ハ豫審中ニ爲シタル詐僞ノ供述書ノ朗讀アリタルニ因リ其供述ニ係ル事件ニ付キ裁判言渡アリタル後是等

ノ者刑ノ言渡ヲ受ケタル時及ヒ官吏、被告人ヲ陷害スル爲メ犯罪ノ事件ヲ報知シ又ハ檢證シタル申立書又ハ調書ヲ僞造シタルニ、因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル時但公判ニ於テ其申立書又ハ調書ヲ朗讀シタル時ニ限ル可シ

第五百八十三條　再審ノ訴ヲ爲スヿヲ得ヘキ者左ノ如シ

一　刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官

二　刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ管轄スル控訴裁判所ノ檢事長

三　大審院檢事長

檢事長ハ司法卿ノ命ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其訴ヲ爲ス可シ

四　刑ノ言渡ヲ受ケタル者但刑ノ消滅セサルキハ現ニ其執行ヲ受ケタル場合ニ限ル可シ

五　對質裁判ト缺席裁判トヲ問ハス刑ノ言渡ヲ受ケタル者既ニ死去シタルキハ第百九十七條ニ記載シタル親族、遺囑ノ贈遺ヲ受ケタル者、嘗テ其事件ニ干預シタル辨護人又ハ本人ヨリ特ニ委任ヲ受ケタル者

第五百八十四條　總テ前條ニ記載シタル者ハ第五百八十二條第一ノ場合ニ於テハ刑ノ滿期、期滿免除、恩赦又ハ復權ニ因リ刑ノ消滅シタルト否トニ拘ハラス何時ニテモ再審ノ訴ヲ爲スヿヲ得

檢察官ハ同條第二以下ノ場合ニ於テ亦何時ニテモ其訴ヲ爲スヿヲ得

訴訟管係人ハ前項ト同一ノ場合ニ於テハ刑ノ消滅シタルト否トニ拘ハラス其訴ヲ爲スヿヲ得ヘキ原由ノ生シタルヨリ三年内ニ之ヲ爲スヿヲ得

第五百八十五條　再審ノ訴ヲ爲サントスル者ハ其趣意書ニ原裁判言渡書ノ謄本及ヒ其證書類ヲ添ヘ大審院充ニテ之ヲ差出ス可シ

又參考ニ供ス可キ事物アルトキハ前項ノ書類ニ之ヲ添フ可シ

第五百八十六條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ其代人再審ノ訴ヲ爲サントスルトキハ前條ノ書類ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ若シ刑ノ言渡ヲ受ケタル者現ニ勾留ヲ受ケタルトキハ監獄長ニ其書類ヲ差出シ監獄長ヨリ速ニ原裁判所ノ書記局ニ之ヲ差出ス可シ

原裁判所ノ檢察官ハ其書類ニ意見書ヲ添ヘ控訴裁判所ノ書記局ニ之ヲ差出ス可シ

控訴裁判所ノ檢事長ハ其書類ニ意見書ヲ添ヘ大審院ノ書記局ニ之ヲ差出ス可シ

原裁判所ノ檢察官及ヒ控訴裁判所ノ檢事長自ラ再審ノ訴ヲ爲サントスルトキハ前二項ノ手續ニ循ヒ其書類ヲ差出ス可シ

第五百八十七條　大審院ニ於テハ院長ノ命ニ依リ刑事局判事全員會議局ニ集會シ他ノ事件ヲ閣キ先ツ再審ノ訴ヲ受理ス可キヤ否ヲ判決ス可シ

檢事長自カラ其訴ヲ爲サントスルトキハ意見書ヲ差出ス可シ

第五百八十八條　左ノ場合ニ於テハ再審ノ訴ヲ棄却ス可シ

一　第五百八十二條ニ定メタル原由アラサル時

二　第五百八十三條ニ定メタルヨリ以外ノ者其訴ヲ爲シタル時

三　第五百八十四條ニ定メタル期限經過シタル時

四　第五百八十五條ニ定メタル書類ヲ差出サヽ

ル時此場合ニ於テハ大審院ニテ其書類ヲ差出サシムル爲メ期限ノ猶豫ヲ與フルヿヲ得

第五百八十九條　大審院ニ於テ再審ノ訴ヲ受理シタルトキハ其旨ヲ言渡シ且其言渡ニ依リ刑ノ言渡ノ執行ヲ停止ス可キノ言渡ヲ爲ス可シ但刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其處刑場ニ之ヲ留置ス可シ

前項ノ言渡書ハ速ニ司法卿ニ之ヲ差出シ司法卿ハ其執行ヲ命ス可シ

第五百九十條　大審院ニ於テハ前條ノ言渡ヲ爲シタル後速ニ公廷ニテ專任判事ノ申立及ヒ檢事長ノ意見ヲ聽キ本案ノ取調ヲ爲ス可シ

第五百八十二條第一ノ場合ニ於テハ同條ニ記載シタル時間ニ嘗テ被殺人ト認メラレシ者ノ死去又ハ生存ヲ檢証シ又ハ他ノ裁判所ニ委任シテ之ヲ檢証セシム可シ

同條第二ノ場合ニ於テハ同一ノ事件ニ付キ數箇ノ裁判言渡抵觸スルニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ一名又ハ數名無罪タル可キヤ否ヲ檢証ス可シ

同條第三第四第五ノ場合ニ於テハ再審ノ原由タル証據充分ナリヤ否ヲ取調フ可シ

第五百九十一條　何レノ場合ニ於テモ大審院ニテ再審ノ原由アルヿヲ認メタルトキハ公訴及ヒ私訴ノ言渡ニ付キ再審ヲ爲ス可キヿヲ言渡シ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ更ニ被告人トシテ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移ス可シ

然レモ再審ニ係ル事件輕罪ナルトキハ控訴裁判所ニ之ヲ移ス可シ

第五百八十二條第二ノ場合ニ於テ同等ニ非サル二箇以上ノ裁判所ノ裁判言渡牴觸スルトキハ其上等ナル裁判所ト同等ノ裁判所ニ其事件ヲ移シ若シ通常裁判所ト特別裁判所トノ裁判言渡牴觸スルトキハ通常裁判所ニ其事件ヲ移ス可シ

對質ト缺席トヲ問ハス刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ一名又ハ數名既ニ死去シタルトキハ其親族又ハ朋友中ヨリ死者ノ保護人ヲ命ス可シ

第五百九十二條　再審事件ノ送付ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ破毀ニ係ル事件ノ送付ヲ受ケタル場合ト同一ノ規則ニ循ヒ之ヲ裁判ス可シ

被告人中缺席シタル者アルトキハ通常ノ規則ニ循ヒ其手續ヲ爲ス可シ

死者ノ保護人ハ通常被告人ト同一ナル辨護ノ權ヲ有ス

第五百九十三條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ一名又ハ數名無罪タルノ証アルトキハ裁判所ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲ス可シ

刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ一名又ハ數名有罪タルノ証アルトキハ法律ニ循ヒ刑ノ言渡ヲ爲ス可シ

又要償ノ訴ニ付キ判決ヲ爲ス可シ

第五百九十四條　再審ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ハ再審ノ裁判言渡書ニ訴訟書類ヲ添ヘ大審院ニ之ヲ

差出ス可シ

大審院ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル規則ニ循ヒ公廷ニテ檢事長其他訴訟管係人ノ請求ニ依リ判決ヲ爲ス可シ

第五百九十五條　大審院ニ於テハ再審ノ裁判ニ依リ被告人ノ一名又ハ數名無罪ノ言渡ヲ受ケタルトキハ其言渡ヲ受ケタル者ニ管スル原裁判言渡ヲ破毀シ再審ノ裁判言渡ヲ執行ス可キノ言渡ヲ爲ス可シ

若シ再審ノ裁判ニ依リ無罪ノ言渡ヲ受ケタル者既ニ死去シタルトキハ其名譽ヲ復スルノ言渡ヲ爲ス可

シ破毀ノ言渡書ハ之ヲ掲示ス可シ但其場所及ヒ方法ハ大審院ニ於テ之ヲ定ム

第五百九十六條　再審ノ裁判ニ依リ被告人ノ一名又ハ數名原裁判言渡ヨリ輕キ刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ其言渡ヲ受ケタル者ニ管スル原裁判言渡ヲ破毀シ第五百四十三條ニ循ヒ刑期ヲ減シ再審ノ裁判言渡ヲ執行ス可キノ言渡ヲ爲ス可シ

再審ノ裁判ニテ言渡シタル刑原裁判ニテ言渡シタル刑ヨリ重ク又ハ同一ナルトキハ原裁判言渡ヲ執行ス可キノ言渡ヲ爲ス可シ但其言渡ニ付テモ亦之ヲ適用ス

本條ノ規則ハ私訴ノ言渡ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第五百九十七條　再審ノ訴アリタル場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者盡ク死去シタルトキハ大審院ニテ第五百九十條ニ循ヒ取調ヲ爲シ其訴ヲ受理ス可キモノト認メタルトキハ再審ノ爲メ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スヿナク原裁判言渡ヲ破毀シ死者ノ名譽ヲ復シ且罰金及ヒ訴訟費用ヲ代權人ニ還付スルノ言渡ヲ爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テ私訴ノ管係人ハ民事裁判所ニ其

訴ヲ爲スヿヲ得

第三章　裁判管轄ヲ定ムルノ訴

第五百九十八條　豫審又ハ公判ニ拘ハラヅ二箇以上ノ裁判所ニ於テ同時ニ同一ノ事件又ハ附帶ノ事件ニ付キ訴アリタルトキハ檢察官其他訴訟管係人ヨリ左ノ條件ニ循ヒ大審院ニ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲スヿヲ得

一　管轄抵觸スル何レノ裁判所ニ於テモ管轄違ノ申立ヲ爲スヿヲ得ヘカラサル時

二　始審ノ裁判ニ依リ管轄違ノ申立ヲ棄却セラレ其言渡ニ對シ控訴ヲ怠リ又ハ控訴ヲ棄却セラレタル時

三　管轄抵觸スル裁判所同一ナル上等ノ裁判所ノ管轄ニ屬セサル時

第三百二十一條ノ場合ニ於テモ亦同シ

四　同一ナル上等ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル時ト雖モ第二百六十三條第三百十九條第三百二十條ニ循ヒ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲シタル場合ニ於テ其裁判所ノ判決ニ不服アル時

第五百九十九條　裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲スニハ

申立書ニ趣意書ヲ添ヘ大審院充ニテ管轄抵觸スル一方ノ裁判所ノ書記局ニ之ヲ差出ス可シ

其申立書及ヒ趣意書ハ書記ヨリ對手人ニ之ヲ送達シ對手人ハ其送達ヲ受ケタルヨリ三日内ニ答辨書ヲ差出スヿヲ得

第六百條　檢察官ハ速ニ前條ノ書類ヲ大審院ニ差出ス可シ但檢察官申立人又ハ對手人ナラサルトキハ其意見書ヲ添フ可シ

又檢察官ハ同一ノ事件ニ付キ訴ヲ受ケタル他ノ裁判所ノ檢察官ニ裁判管轄ヲ定ムルニ付テノ訴アリタルヿヲ通知ス可シ但其裁判所ニ於テハ裁判ヲ停止シ又ハ繼續スルヿヲ得

第六百一條　大審院ニ於テハ檢事長ノ請求ニ依リ再審ノ訴ヲ除クノ外一切ノ事件ヲ閣キ各局判事會議局ニ集會シ第五百九十八條ノ原由ニ因リ先ツ其訴ヲ受理スヘキヤ否ヲ判決ス可シ

若シ第五百九十八條ノ規則ニ背キタルニ因リ其訴ヲ受理ス可カラサルモノト認メタルトキハ之ヲ棄却ス可シ

又其訴ヲ受理ス可キモノト認メタルトキハ同一ノ事

件ニ付キ訴ヲ受ケタル各裁判所ニ訴訟ニ管スル一切ノ書類ヲ差出ス可キノ言渡ヲ爲ス可シ

其言渡書ハ速ニ司法卿ニ之ヲ差出シ司法卿ハ其執行ヲ爲サシム可シ

第六百二條　裁判所ニ於テ大審院ノ言渡書ヲ受取リタルトキハ當然辨論ヲ停止ス可シ但急速ヲ要スル事件ニ付キ相當ノ處分ヲ爲スハ此限ニ在ラス

檢察官其他訴訟管係人裁判管轄ヲ定ムル訴ニ付キ未タ意見書ヲ差出サヽルトキハ原裁判所ノ書記局ヨリ第三百二十四條ノ規則ニ循ヒ之ヲ差出ス可キノ通知ヲ爲ス可シ

第六百三條　大審院ニ於テハ訴訟書類及ヒ意見書ヲ受取リタル上ニテ公廷ニテ專任判事ノ申立及ヒ檢事長ノ意見ヲ聽キ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ判決ス可シ

訴訟管係人ハ大審院所屬ノ代言人ヲシテ其意見ヲ陳述セシムルヿヲ得

管轄抵觸セサルモノト認メタルトキハ其訴ヲ棄却シ各裁判所ニ於テ前ニ停止シタル事ヨリ以後ノ手續ニ取掛ル可キノ言渡ヲ爲ス可シ

若シ管轄抵觸スルモノト認メタルトキハ本案ノ事件ヲ裁判セシムル爲メ第一編通則ニ循ヒ相當ノ裁判所ヲ定示ス可シ

第六百四條　通常裁判所ト特別裁判所トヲ問ハス又其等級ノ如何ニ拘ハラス一箇又ハ數箇ノ裁判所ニ於テ管轄ニ非サルノ言渡ヲ爲シ其言渡確定シタル時又忌避ノ原由又ハ非常ノ事變アルニ因リ訴訟事件ヲ管理スルヿ能ハサルトキハ大審院ニ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲スヿヲ得

第六百五條　前條ノ原由ニ因リ裁判管轄ヲ定ムルノ

訴ハ本案ノ事件ニ管係シタル檢察官其他訴訟管係人ヨリ大審院ニ直ニ之ヲ爲スヿヲ得又大審院檢事長ハ司法卿ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其訴ヲ爲スヿヲ得

第六百六條　本案ノ事件ニ管係シタル檢察官其他訴訟管係人ヨリ裁判管轄ヲ定ムルノ趣意書ヲ差出シタルトキハ其裁判所ノ書記局ヨリ趣意書ヲ對手人ニ送達シ對手人ハ其送達ヲ受ケタルヨリ三日內ニ答辨書ヲ差出スヿヲ得

趣意書及ヒ答辨書ハ訴訟書類ト共ニ大審院ニ之ヲ

差出ス可シ

第六百七條　大審院檢事長ヨリ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲シタルトキハ前條ノ手續ヲ爲ス可キ爲メ本案ノ事件ニ管係シタル檢察官ヲシテ訴訟管係人ニ其旨ヲ通知セシム可シ

被告人現ニ勾留ヲ受ケタルトキハ大審院ノ職權ヲ以テ代言人一名ヲ命ス可シ

第六百八條　大審院ニ於テハ公廷ニテ專任判事ノ申立代言人ノ陳述及ヒ檢事長ノ意見ヲ聽キタル上ニテ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ判決ス可シ

第六百九條　大審院ニ於テハ原被ノ差出シタル書類ニ依リ被告人ノ身分犯罪ノ種類及ヒ場所ニ付キ裁判管轄ヲ認定スルヿヲ得ルトキハ本案ノ事件ヲ裁判セシムル爲メ前ニ管轄ニ非サルノ言渡ヲ爲シタル裁判所ナルト否トニ拘ハラス法律ニ循ヒ管轄ナル裁判所ヲ定示ス可シ

若シ裁判管轄ヲ認定スルニ充分ナル証憑ナキトキハ豫審ヲ爲サシムル爲メ其事件ヲ控訴裁判所ニ移ス可シ控訴裁判所ニ於テハ豫審ヲ爲シタル上ニテ被告事件ヲ重罪ナリトスルトキハ重罪裁判所ニ移スノ

言渡ヲ爲シ又輕罪又ハ違警罪ナリトスルトキハ直ニ其裁判ヲ爲ス可シ

第六百十條　管轄裁判所ニ於テ忌避ノ原由又ハ非常ノ事變アルニ因リ其事件ヲ管理スル能ハサルトキハ其裁判所ヨリ最近ナル三箇中ノ裁判所ヲ定示ス可シ

第六百十一條　檢察官ヲ除クノ外訴訟管係人ハ第五百九十九條第六百六條第六百七條ノ送達又ハ報知ヲ受ケサルトキハ裁判管轄ヲ定ムルノ判決ニ對シ大審院ニ故障ヲ爲スヿヲ得

故障ハ判決書ノ送達アリタルヨリ三日內ニ之ヲ爲ス可シ

故障ノ申立ハ判決書ノ送達ヲ爲シタル裁判所ノ書記局ニ之ヲ爲ス可シ

故障ニ管スル書類ハ原裁判所ノ檢察官ヨリ大審院ノ書記局ニ之ヲ差出ス可シ

大審院ニ於テハ公廷ニテ代言人ノ陳述及ヒ檢事長ノ意見ヲ聽キ故障ニ付キ判決ヲ爲ス可シ

第六百十二條　上告ニ管スル規則ハ此章ニモ亦之ヲ適用ス但前數條ノ規則ニ牴觸スル箇條ハ此限ニ在

ラス

大審院ノ判決ニ對スル哀訴ニ付テモ亦前項ニ同シ」

第六百十三條　裁判管轄ヲ定ムル大審院ノ判決書ハ訴訟書類ト共ニ速ニ司法卿ニ之ヲ差出シ司法卿ハ前ニ管轄ニ非ス又ハ管轄ナリトノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ是等ノ書類ヲ送達シ速ニ其執行ヲ爲サシム可シ

第四章　公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴

第六百十四條　犯罪ノ性質、被告人ノ身分員數、地方民心ノ激動其他重大ナル事情ニ因リ裁判ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生スルノ恐アルトキハ公安ノ爲メ豫審及ヒ公判ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スヿヲ得

公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ司法卿ノ命ニ依リ大審院檢事長ヨリ其院ニ之ヲ爲ス可シ

第六百十五條　大審院ニ於テハ會議局ニテ訴訟管係人ノ申立ヲ聽クヿナク速ニ前條ノ訴ヲ判決ス可シ」

前項ノ判決ニ付テハ故障又ハ哀訴ヲ許サス

第六百十六條　被告人ノ身分、地方ノ民心、又ハ訴訟ノ模樣ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルヿ能ハサルノ恐

アルトキハ嫌疑ノ爲メ豫審及ヒ公判ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スヿヲ得

第六百十七條　嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ管轄裁判所ノ檢察官其他訴訟管係人ヨリ大審院ニ之ヲ爲スヿヲ得

然レトモ民事原告人嫌疑アル裁判所ニ訴ヲ爲シ又被告人其裁判所ニ於テ異議ノ申立ナクシテ本案ニ付キ辨論ヲ爲シタルトキハ前項ノ訴ヲ爲スヿヲ得ス但嫌疑ノ原由新ニ生シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百十八條　嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲スニハ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ト同一ノ規則ニ循ヒ申立書及ヒ趣意書ヲ差出ス可シ

其他訴訟ノ手續ハ裁判管轄ノ訴ヲ定ムルニ付キ第五百九十九條ヨリ第六百三條マテニ定メタル規則ニ循フ

第六百十九條　檢察官ヨリ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲シタルトキハ裁判所ニ於テ當然辨論ヲ停止ス可シ

若シ訴訟管係人ヨリ其訴ヲ爲シタルトキハ辨論ヲ停止シ又ハ繼續スルヿヲ得

第六百二十條　裁判管轄ヲ移スノ訴ニ付テノ大審院ノ判決書ハ速ニ司法卿ニ之ヲ差出シ司法卿ハ其執行ヲ爲サシム可シ

第五編　裁判執行、復權及ヒ恩赦

第一章　裁判執行

第六百二十一條　重罪、輕罪及ヒ違警罪ノ刑ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ執行ス可カラス

禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ上訴ノ期限中又上訴アリタルトキハ其判決アルマテ之ヲ監倉ニ留置ス可シ但假釋ヲ許シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百二十二條　死刑ノ言渡アリタル場合ニ於テ其言渡ヲ受ケタル者又ハ檢察官ヨリ上告ヲ爲サヽルトキハ恩赦ノ申立アルト否トニ拘ハラス檢察官ヨリ速ニ訴訟書類ヲ司法卿ニ差出ス可シ

第六百二十三條　第六百四十五條ニ記載シタル者ヨリ恩赦ノ申立ヲ爲サス又第六百四十七條ニ循ヒ司法卿ヨリ恩赦ノ上奏ヲ爲サヽルトキハ裁判執行ノ命令書ト共ニ訴訟書類ヲ十日内ニ原裁判所ノ檢察官ニ送致ス可シ但其送致アリタルヨリ三日内ニ執行ヲ爲ス可シ

第六百二十四條　死刑ヲ除クノ外總テ刑ノ言渡ハ上告ノ期限ヲ經過シ其言渡確定シタルヨリ三日內ニ之ヲ執行ス可シ

第六百二十五條　大審院ニ於テ上告ヲ棄却シ又ハ直ニ刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ原裁判所又ハ大審院ヨリ別段命ヲ受ケタル裁判所ニ於テ大審院ノ判決書ヲ受取リタルヨリ三日內ニ其執行ヲ爲ス可シ

死刑ノ言渡ニ付テハ第六百二十三條ノ規則ニ循フ

第六百二十六條　刑ノ執行ハ原裁判所又ハ大審院ヨリ別段命ヲ受ケタル裁判所ノ檢察官ノ指揮ニ依リ

之ヲ爲ス可シ

罰金、官ニ納ム可キ訴訟費用及ヒ廢棄ス可キノ言渡ニ係ラサル沒收物品ハ檢察官ノ委任狀及ヒ裁判言渡書ノ拔書ニ依リ收稅官吏之ヲ徵收ス可シ

破壞又ハ廢棄ス可キノ言渡ニ係ル沒收物品ハ檢察官之ヲ處分ス可シ

第六百二十七條　死刑言渡ノ執行ニ付テハ書記其始末書ヲ作リ刑ノ執行規則ニ循ヒ立會ヲ爲シタル檢察官及ヒ立會人二名ト共ニ署名捺印ス可シ

總テ自由ヲ停止スル刑ハ其刑ノ言渡ヲ受ケタル者

ノ氏名ヲ既決囚員簿ニ登記シタルヲ以テ執行ノ証ト為ス可シ

罰金、訴訟費用及ヒ沒收物品ニ付テハ收税官吏ノ受取証書ヲ以テ執行ノ証ト為ス可シ

其他執行ニ管スル諸般ノ規則ハ監獄則ニ之ヲ定ム

第六百二十八條　内地ノ監獄及ヒ其他ノ處刑場ハ内務卿ノ管轄ニ属ス但陸海軍ノ監獄及ヒ其他ノ處刑場ハ此限ニ在ラス

島地ノ監獄及ヒ其他ノ處刑場ハ海軍卿ノ管轄ニ属ス

第六百二十九條　對質ト缺席トヲ問ハス裁判言渡確定シ又ハ重罪ニ付キ缺席裁判アリタルトキハ其刑ノ言渡ヲ為シタル院又ハ裁判所ノ書記既決犯罪表ヲ作リ左ノ條件ヲ記載ス可シ

一　犯人ノ氏名、年齢、職業、住所及ヒ出生ノ地

二　法律ニ定メタル罪名

三　適用シタル刑名

四　宥恕又ハ酌量減輕アリタルヿ

五　再犯又ハ其他ノ加重アリタルヿ

六　裁判言渡ヲ為シタル年月日

七　對質裁判又ハ缺席裁判

第六百三十條　既決犯罪表ハ三通ヲ作リ犯人出生ノ地ノ始審裁判所ノ書記局及ヒ司法省ニ各一通ヲ送致シ他ノ一通ヲ其裁判所ノ書記局ニ藏置ス可シ

大審院ニ於テ直ニ刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ其執行ヲ爲シタル裁判所ノ書記既決犯罪表ヲ作ル可シ

違警罪裁判所ノ書記ハ前條ノ規則ニ循ヒ既決犯罪表二通ヲ作リ其一通ハ司法省ニ之ヲ送致シ他ノ一通ヲ其裁判所ノ書記局ニ藏置ス可シ

第六百三十一條　司法統計表ノ編製ニ管スル書記ノ

職務ハ別段ノ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第六百三十二條　刑ノ種類分量及ヒ人違等ニ管シ裁判言渡ノ解釋及ヒ執行ニ付キ異議ノ申立アリタルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ判決ス可シ

第六百三十三條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡ノ後捕ニ就キタル場合ニ於テ人違タルノ申立アリタルトキハ其人違タルヤ否ヲ認定スル爲メ前ニ其罪ヲ認メタル裁判所ニ之ヲ送致ス可シ

若シ裁判所ニ於テ本犯タルヿヲ認定スルヿ能ハサ

ルトキハ事實參考ノ爲メ嘗テ其事件ニ干預シタル原被ノ証人裁判官檢察官書記又ハ陪審ヲ呼出スヿヲ得

第六百三十四條　前二條ノ場合ニ於テハ公廷ニテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ申立及ヒ檢察官ノ意見ヲ聽キタル上ニテ裁判言渡ヲ爲ス可シ

其裁判言渡ニ付テハ上訴ヲ許サス但管轄違又ハ越權アルトキハ上告ヲ爲スヿヲ得

大審院ニ於テ其上告ニ係ル裁判言渡ヲ破毀シタルトキハ直ニ裁判言渡ヲ爲シ又ハ通常ノ規則ニ循ヒ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スヿヲ得

第六百三十五條　賠償及ヒ訴訟管係人ニ償還ス可キ訴訟費用ニ付テノ言渡ハ權利者ヨリ直ニ其執行ヲ求ム可シ

民事ノ裁判執行ニ管スル諸般ノ規則ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

第二章　復權

第六百三十六條　刑法第七十五條ニ定メタル復權ノ願ハ同條ノ期限經過シタル後刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ司法卿ニ之ヲ爲ス可シ

復權ノ願書ハ本人又ハ部理代人署名捺印シタル上ニテ本人現ニ住スル地ノ始審裁判所撿事ニ之ヲ差出ス可シ

第六百三十七條　復權ノ願書ニハ左ノ書類ヲ添フ可シ

一　裁判言渡書ノ公正ナル謄本

二　主刑ノ滿期、恩赦又ハ期滿免除アリタルヿヲ証明スル書類

三　罰金、賠償及ヒ官又ハ民事原告人ニ償フ可キ訴訟費用ヲ辨濟シ又ハ其義務ヲ免レタルノ証書

四　主刑消滅ノ後又ハ單ニ監視ノ刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ其言渡ノ後住居シタル地名刑ノ期滿免除アリタルトキハ其言渡ノ後住居シタル地名

五　過去及ヒ現在ノ生計方法ヲ記載スル証書

第六百三十八條　撿事ハ復權ノ願アリタルトキハ左ノ書類ヲ差出サシム可シ

一　前條第四ニ記載シタル住居ノ時間重罪又ハ禁錮ニ該ル可キ輕罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケサル

ヿヲ保証スル願人住居シタル地ノ始審裁判所長ノ認印シタル書記ノ証書

若シ願人外國ニ住居シタルヿアルキハ其地ノ在留領事ノ証書

二　願人ノ品行及ヒ生計ノ方法ヲ明記スル同上ノ地ノ警部又ハ領事ノ証書

又撿事ハ必要ナル取調ヲ爲スヿヲ得

然ル後願書及ヒ一切ノ書類ニ意見書ヲ添ヘ控訴裁判所ノ撿事長ニ之ヲ差出ス可シ但本條第一ニ記載シタル書類ハ必ス之ヲ添フ可シ

第六百三十九條　撿事長ハ更ニ必要ナル取調ヲ爲スヿヲ得然ル後復權ノ願ニ管スル書類ニ其意見書ヲ添ヘ司法卿ニ之ヲ差出ス可シ

第六百四十條　司法卿ハ復權ノ願ニ管スル書類ヲ撿閲シタル上ニテ必要ナル取調ヲ爲サシムルヿヲ得若シ復權ノ願規則ニ背キタルヿナク且其願ヲ允許ス可キモノト認メタルキハ速ニ上奏ス可シ

第六百四十一條　勅裁又ハ司法卿ノ意見ニ依リ復權ノ願ヲ棄却シタルキハ司法卿ヨリ其旨ヲ控訴裁判所ノ撿事長ニ通知シ撿事長ヨリ願書ヲ差出シタル

檢事ニ通知ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ刑法第七十五條ニ定メタル期限ノ半ヲ經過スルニ非レハ更ニ其願ヲ爲スヿヲ得ス

更ニ復權ノ願ヲ爲スニ付テモ亦前數條ノ規則ニ循フヿヲ要ス

第六百四十二條　復權ノ裁可アリタルトキハ司法卿ヨリ其裁可狀ヲ控訴裁判所ノ檢事長ニ送致シ檢事長ヨリ願人所在ノ地ノ始審裁判所檢事ニ之ヲ送致ス可シ

其裁判所ニ於テハ檢事ノ請求ニ依リ公廷ニテ裁可狀ヲ朗讀シタル上ニテ公正ノ謄本ヲ願人ニ下付ス可シ

檢事ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ裁可狀ノ謄本ヲ送致シ其裁判所ニ於テハ裁判言渡書ニ之ヲ記入ス可シ

第六百四十三條　復權人住所ノ地ノ裁判所ニ於テハ復權人ノ請求ニ依リ其費用ヲ以テ裁可狀ヲ印刷シ刑ノ言渡書ヲ掲示シタル場所及ヒ現今住居ノ地ニ之ヲ掲示スルヿヲ允許スルヲ得

第六百四十四條　復權ヲ得タル後再ヒ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタルニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ更ニ復權ノ願ヲ爲スヿヲ得ス

第三章　恩赦

第六百四十五條　全赦及ヒ減赦ノ願ハ刑ノ言渡アリタルヨリ三日内ニ裁判官陪審ヨリ之ヲ爲シ又何時ニテモ檢察官又ハ監獄長ヨリ之ヲ爲スヿヲ得

司法卿ハ第六百二十二條及ヒ其他ノ場合ニ於テ何時ニテモ恩赦ノ願ヲ爲スヿヲ得

第六百四十六條　前條第一項ノ場合ニ於テ恩赦ノ願書ハ檢察官ヲ經由シテ司法卿ニ之ヲ差出ス可シ但檢察官ヨリノ願ニ係ラサルキハ其意見書ヲ添フ可シ

又檢察官ハ訴訟書類及ヒ恩赦ノ願ヲ正當又ハ不正當ナリトスル一切ノ書類ヲ添フ可シ

第六百四十七條　前二條ノ規則ニ循ヒ恩赦ノ願アリタルキハ司法卿ヨリ其書類ニ意見書ヲ添ヘ上奏ス可シ

第六百四十八條　死刑ヲ除クノ外恩赦ノ願アリト雖モ其刑ノ執行ヲ停止セス

第六百四十九條　恩赦ノ願棄却アリタルトキハ司法卿ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ニ其旨ヲ通知ス可シ

第六百五十條　全赦又ハ減赦ノ裁可アリタルトキハ司法卿ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ニ其裁可狀ヲ送達ス可シ此場合ニ於テハ總テ第六百四十二條ノ規則ニ循フ

28.9-2